

男女共同参画社会

を考える情報誌

ききょうフォーラム通信



令和6年度いせはら男女共同参画フォーラムを開催しました

講演の要旨と受講者の感想をお伝えします。

講師 しらかわ とうこ 白河 桃子氏 (ジャーナリスト、相模女子大学大学院特任教授、昭和女子大学客員教授)

テーマ ジェンダー視点で見るヒットドラマ 現代日本の働き方、ワークライフバランス、夫婦の形

開催日 2025年2月26日 (水曜日)

場所 伊勢原市民文化会館 小ホール



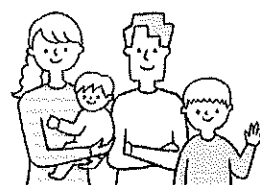
講演の要旨 2016年に放送されたTBSテレビ系の人気ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」(以下、逃げ恥)を題材に、主に次のテーマについての話がされました。

■家事労働の評価 逃げ恥では、専業主婦の家事労働を「無償ケア労働」(賃金が発生しないが社会に必要な労働)として可視化し、その価値が問い直されました。愛情や感情によって家事労働が過小評価される現状を、新垣結衣さん演じる主人公の森山みくりは「好きの搾取」と表現し、法律上の結婚に異議を唱え、星野源さん演じる津崎平匡を、家庭という仕事場の「共同経営者」であるとして、最適な家事分担を考えました。

また、家事労働の価値を「機会費用法」に基づいて評価し、もし外で働いていたら得られた収入を基に、家事労働の月給を19.4万円と算出しました。

■夫婦の形と多様性 従来の「夫は仕事、妻は家庭」という固定観念からの脱却を促すだけでなく、共働きや事実婚、同性婚などの多様な夫婦の形が逃げ恥では描かれました。それを踏まえ、現在も国で議論されている選択的夫婦別姓問題といった法制度の課題が提起されました。

■男性の育児参加 男性の育児休業取得の重要性が強調され、育児は「サポート」ではなく「共同作業」という認識が広まっています。また、国内の先進的な企業を紹介し、男性の育児参加は女性の社会進出を促進するだけでなく、男性自身の働き方や意識の改革にも繋がると力説されました。



■ステレオタイプの解消 「男らしさ」「女らしさ」といった固定観念が個人の生き方や可能性を制限している現状を指摘しました。逃げ恥では、これを「呪い」と表現し、メディアやテレビ広告がステレオタイプを助長していることに対して警鐘を鳴らし、意識改革の必要性を訴えました。

■社会全体での支え合い 女性の活躍のためには男性の意識改革と行動変容が不可欠であり、育児は夫婦だけでなく社会全体で支えるべきと強調されました。ステレオタイプを解消するためのワークショップの実施やテレビ広告におけるステレオタイプ規制の重要性も語られました。

受講者の感想 印象に残ったのは、「ステレオタイプ(先入観、固定観念、思い込み)」や「アンコンシャスバイアス(無意識にもつ偏見)」に関するお話です。男女共同参画には、女性だけでなく男性の役割も重要になります。長年の蓄積の中で、「男性は家事や育児をしなくてもよい」という考えが、私自身や家族の中にもあったことに気づき、それを是正することがワークライフバランスの実現に繋がると理解しました。講師が強調した「言論より行動」の重要性、そうした動きが社会に変化をもたらす力になることを期待しています。

裏面に続く